



海上安全環境部 船舶検査官
令和4年度 採用（船舶系技術職員）

【略歴】

令和4年4月 海上安全環境部

※所属、職名、内容などは令和5年6月現在のものです。

現在の仕事内容

- ・船舶の定期的な検査
（船体の安全性確認、必要な法定設備や備品の検査、内燃機関の解放検査など）
- ・新造船の図面審査（法やルールに則った設計がなされているかチェック）
- ・承認に係る事務作業（承認申請等の調査書の作成や本省への進達）

Q. 船舶系技術職員を志望した理由は？

私は大学で船舶工学を専攻し、卒業後は造船系の会社に勤務しました。そこではシステム関連の業務を行っていたのですが、その中で他の造船所とのやり取りや自社が置かれている現状を踏まえて、造船業界全体に関わるような業務をしたいと考えるようになりました。

そこで国内の海事技術行政を担っている国土交通省に注目し、法を根拠とし船舶の安全に寄与する船舶検査官の業務を行ってみたいと考え志望しました。その際、造船職試験(いまの船舶系技術職試験)があり、自分自身が携わりたい業務に確実に就けることも理由の一つでした。

船舶系技術職員は全国や海外にも転勤するルートがあることや、現在私が従事している船舶検査官以外にも船舶測度官や外国船舶監督官などの仕事があり、様々なキャリアプランがあることも魅力でした。

Q. 仕事のやりがいは？

実際に検査した船舶が無事に運航している様子を見たときは達成感があります。現在私が勤務している九州運輸局本局では、博多港内を航行している旅客船の検査も執行しています。博多ふ頭に行くと実際に自分が検査した船舶が旅客を無事に運んでいる様子を見られてうれしく思います。

また、検査で船体や設備の不備などを見つけた際に、船主や造船所から感謝され、自分の検査の反応が直に感じられるのも魅力です。

Q. 職場の雰囲気は？

一般論からいうと職場の雰囲気は、結局のところ「人」によります。口コミサイト等では、会社単位で語られがちですが、実際同じ会社でも部署やチームが変われば雰囲気が大きく違います。

私が所属している船舶系の部署や船舶系技術職員は、雰囲気が良い方が多いので、話しかけやすかったり、サポートしてもらえたり働きやすい職場です。また、年次休暇や育休が取りやすくワークライフバランスが良かったり、遠隔検査の検証などの新しい試みを検証出来たり、自由度が高い職場だと思います。

Q. 1日の仕事の流れ

8:30 始業

始業の10分前ぐらいに着くようになっています

9:00 検査出発

船舶の検査や舶用品の検査を行います

離島など遠方に検査に行く場合は、庁舎に寄らず現場に直行します

12:00 昼食

14:00 帰庁後の事務作業

帰庁したら船舶のデータベースの入力や計測結果・図面等を整理、さらに交付する証書等を作成します

15:00 図面審査 or 書類作成

期日が近いものや作業量があるものをバランス良く処理していきます

16:45 検査準備

翌日の検査内容を確認し、検査の準備をします

17:15 退庁

勤務時間は7時間45分(休憩1時間)が標準です

作業が長引いたりすると30分~1時間ほど残業します

(その際、船舶検査官の執務スペースが私1人になっていることも珍しくないです…)



Q. 就職活動中の皆さんへのメッセージ

説明会や業界研究などを駆使して、後悔のないよう就活に望んでください。船舶系技術職員は、船体や海洋系の勉強をしていないと就職後苦労するイメージがあるかも知れませんが、実際はそんなことはありません。実際造船所でも、設計部門はおおまかに構造、機関、電気、流体、船体計画の部署に分かれており、それぞれの専攻を学んだ方々が活躍しています。船舶系技術職員はそれの全てを網羅しておく必要があるため、その中で何か一つでも強みを持っていれば十分自信を持って業務に励めます。さらに研修制度が充実しているので採用後も安心です。